

DIGITABLE 第 51 回勉強会レポート

2012 年 1 月 21 日 於：森下文化センター 第一研修室



Digitable 基礎講座「スタジオライティングとモデル撮影のポイント」：高木大輔講師
参加者全員による“ライトニングトーク”（持ち時間 5 分）

Photoshop 研究講座「HDR 合成・D ライティング」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 基礎講座 2011 第 8 回

スタジオライティングとモデル撮影のポイント： 高木大輔講師（APA 会員）

* 4 つの基本ライティング（キーライト）
スタジオでのライティング勉強会では、スタジオ備え付けの大型ストロボを使用し、キーライトの代表的な 4 パターンの違いを体験する狙いであった。複雑に見えるスタジオライティングもこれら 4 つのキーライトを基準とし、それらに強弱をつけて組み合わせたり、レフ等の補助光を組み合わせ使用している場合がほとんどである。

* メインライトと補助光の組み合わせ
通常のスタジオライティングでは、必ずしも多灯を使用するわけではない。補助光として手軽で有効なのがレフ板で、スタジオでは大小さまざまなものが利用されている。補助レフの組み合わせで、ある程度のライティングのコントロールが可能だ。

* モデル撮影のポイント

1. モデルの特徴をつかみ、完成イメージを描く
モデルというのはカメラマンとの対話の中で表情を作っていくものだ。撮影者の意図やリズムが分かって、気持ちが乗ってくると、指先や体のしぐさも美しくなるものだ。イメージに近いものが撮れたら、ぜひ背面モニターでモデルさんに見せ成果を共有しよう。モデルさんにも安心感が生まれ、その後の撮影がスムーズに行く。

2. 軽く体を捻ることにより表情が生まれる
単に「笑って下さい」ではなく、少し体を傾いだり、捻ってもらうことにより自然に表情が生まれる。ごく簡単な動作の変化を組み合わせることで、顔もからだも思わぬ表情の変化が生まれる。

3. 目線による表情の変化
目線を動かしながら、だんだん閉じていってもらっている。目線の変化により表情が作られていくのが分かるだろう。

（禁：無断転載）DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

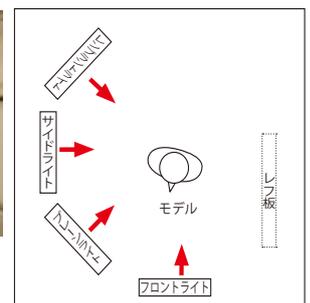
<http://www.digitable.info>



解説する高木大輔講師



実写した TK-PRESS スタジオと 4 つのキーライト



4 つのキーライト 左からフロントライト、プレーンライト、サイドライト、レンブラントライト



モデルの目線による表情の変化

参加者全員による“ライトニングトーク”

(各自持ち時間 5分)

KM さんは土浦の田園風景とモデル撮影会作品。
TE さんは建築写真協会の出版物紹介と合成とパースの話。
NY さんはこれまでのポートレート作品。
IF さんは撮影散歩で力芝と霜の風景が印象的。
AY さんはモデル撮影会作品を独自の色調で。
YA さんはグアム紀行と撮影会情報。
ST さんは真鶴の撮影紀行。
SY さんは帰省した盛岡での風景。
EY さんは独自の長年のプリントテクニックの一端を披露。
…等々、興味深い話しの連続であった。

Photoshop 研究講座 平野正志 講師 「HDR 合成・D ライティング」

*すでに数年前の機種だが、普段持ち歩く小型カメラのリコー CX2 で HDR 合成でダイナミックレンジ拡大撮影を試してみる。

撮影ポジションを DR に合わせると、一度のシャッターで 2 枚を続けて撮影して合成してくれる。DR では黒つぶれの改善もみられるが、全体にはヒストグラムの明暗部分の両サイドを中間に向けて動かしている感じで、黒と白は押さえ、中間のグレーも白方向へ動いているので、結果はグレー中心でやや眠い印象で綺麗なグラデーションとは言えない。結論として、DR 使用では全体に眠くなる傾向は有るが、DR による明暗の範囲拡大に伴い、JPEG の弱点である圧縮による影響と思われる偽色やノイズの部分も多少の改善が見られたのは成果と言えるかもしれない。

DR 撮影ではその処理のために数秒（二三秒）間の処理時間がかかることで、順調な撮影とは言えず、ストレスを感じてしまうこともある。

RAW 撮影ができればと願うところだが…。

*ニコンの P7000、コンパクトカメラだが HDR の機能の代わりにニコン独自の D ライティングという機能が付属するので試してみる。D ライティングは強め、標準、弱め、なしの四種が選択できる。瞬時に二枚の撮影を行っているとはいえ、流れのような動きのあるもの、風に揺れる葉などは難点があった。HDR としてのレンジ拡大効果は確かにありそうだが、全体としては明るめにシフトして白トビなどは抑え気味ではあるが、全体には眠目になる印象が強い。Jpeg 画像である分後の調整よりは良いのかもしれないが、トーンカーブ調整でも可能な程度にも思える。調整が自動で、強弱程度の選択しか無く、適度に行えないのも難点か…。

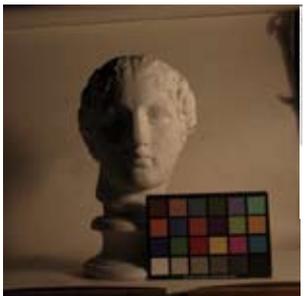
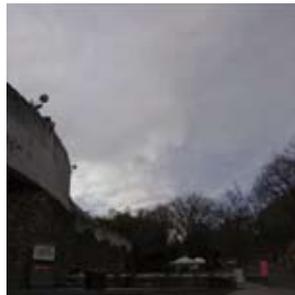
(禁：無断転載) DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



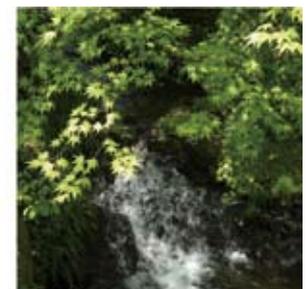
今月の 1 枚：PC を二台並べてのセッション



カメラを手に解説する平野正志講師



DR 撮影結果 (左) と通常撮影結果



DR 強 (左) と通常撮影結果